

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0891700189 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 心和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム福祉の里 | | |
| 所在地 | 茨城県取手市小文間5644 | | |
| 自己評価作成日 | 2021年5月13日 | 評価結果市町村受理日 | 2021年8月16日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 認知症ケア研究所 |
| 所在地 | 茨城県水戸市酒門町4637-2 |
| 訪問調査日 | 2021年6月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】 Aユニット

| |
|---|
| <p>職員間のチームワークを大切にし、長く働ける職場作りをめざしている。 面会が制限されている間のご利用者様の対応、ご家族様への情報提供に力を入れている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>利用者・家族とも良好な関係が築けている。コロナ禍で、専門医受診等を家族に変わって職員が対応しており、内面的なケアの提供が今まで以上に深まっている。四季の移ろいを感じる自然豊かな環境の中、利用者がのびのびと今まで通りの生活を送れるよう、統一したケアの提供に努めている。コロナ禍で面会が制限されている中、家族が心配や不安を抱かないよう細やかな情報提供(電話・手紙・写真送付)を行っている。コロナ感染予防に対するガイドラインが保健センター・市役所から届いており、それに合わせた対応を実施している。かかりつけ医が変更になり、全利用者の医療連携がスムーズになった。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ケア会議での話し合いをもとに短期目標を立て、担当者がモニタリングをする | 視界に入りやすい玄関・事務所・ホールに理念を掲示している。職員は理念を四六時中意識している訳ではないが、当たり前のことと捉え、利用者の安心・安全と笑顔が見られるケアの提供に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在感染予防のため、ケアサポート、地域の方々との交流は行っていない | コロナ禍で地域交流は行われていないが、散歩等で顔を合わせた時は、適度な距離をとりながら挨拶を交わしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 〃 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 〃 | 運営推進会議は一度だけ書面報告で行ったが、それ以降は中止となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 〃 | 関係担当課とは連絡を密にとり、事業所の実情や相談をしている。社会福祉課(生活保護担当)とは、コロナ収束後に更に連携を図っていきたい。コロナに関する注意事項は市の指導に従い実施している。オレンジカフェ・認知症予防の集い・中学生の体験学習受入れは中止となっている。グループホーム連絡会議には併設の交流センターを避難場所として提供可能であると提案した。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ケア会議でカンファレンスのうえ、ご家族様に相談し同意書を頂き、やむを得ない場合のみ施行する | ケア会議で検討し、安全上、やむを得ず拘束となる場合には、家族の同意を得て、解除に向けた取り組みを記録に残し、3ヶ月毎に検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体の異変については、チェック報告をし見過ごす事の無いようにする | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在では研修などへの参加は見送っているが、できる限り情報を取り入れ共通理解活用する | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | フェイスシート、サマリー等を読み込んだうえ、ご家族様と十分な話し合いをする | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議が開けないうえ、面会なども制限があるため、手紙や電話などでこまめに連絡をする | 様々な制限がある状況下である為、写真を添付した近況報告・電話・SNSで細やかな連絡をしている。職員の異動も報告している。体重の増減は食器を変更することで食事の量を調整した。面会を希望する家族が多いので、今後はアクリル板を設置し面会を実施する予定。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ケア会議、代表者会議を活用し報告をする | 法人が変更になり、定年退職制となった。現場での意見交換や全員参加のユニット会議(ケースカンファも兼ねる)で検討し、代表者会議で相談。休憩室が欲しいという要望がでており、系列施設を渡り廊下で繋げる計画がある為、同時に検討する予定である。管理者・職員のチームワークを大切に、職場環境を整備している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者会議などで相談報告をする | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 現状では研修への参加は出来ない為職員同士相談し合うなどして反映させている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者会議で情報交換を行いつたえる | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | フェイスシート、サマリー、ご家族様からの聞き取りをもとに観察し、コミュニケーションを密に繰り返す | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所相談の時からご本人だけでなく、ご家族の心にもよりそう事を心掛けている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ニーズに対応する為の具体的なケアプランに加え広い視野でのサービスも説明する | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に生活している関係を意識して、楽しみを共有できる工夫をする | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会が制限されているなか、リモート通話を活用したりこまめに現状報告をする | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 現在ではできていない | コロナ禍前は、家族の協力を得て個々に外出していたが、現在は手紙・電話・リモート通話で大切な馴染みの人との関係継続に努めている。頂き物をした時には礼状を書き送っている。利用者同士の会話が増え、なじみの関係が深まっている。新聞購読を継続したり、家族が届けてくれるカロリーオフのお菓子を楽しんでいる利用者がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 自発的にコミュニケーションを取ろうとされるよう促し見守るよう努めている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 病院、施設の相談員への聞き取りや、メールなどで近況を報告し合うようにしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 聞き取りよりも、何気ない会話、利用者間のやり取りなどを注意深く観察している | 普段の会話の中から思いや意向の把握に努め、全職員で共有している。お寿司が食べたいという希望が多い。読書・パズル・塗り絵・折り紙等の趣味や洗濯たたみ・掃除・テーブル拭き・手指消毒・食器拭き等の家事でやりがいに繋げている。意向の把握が困難な場合は問いかけを工夫したり、表情や仕草から利用者本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時の聞き取りに加え、後の気付き等も含めたカンファレンスを行う | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 観察記録、申し送りなどを重視し気付きが遅れないよう努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケア会議での報告をもとに課題を共通理解し介護計画に反映させる | 家族・利用者から意見や要望を聞き、担当職員の原案をもとにユニット会議でニーズとケアのあり方について話し合っケアマネがプランを作成している。家族が料金支払いで来訪した時に説明し、同意を得ている。日課計画表で一日の流れとその時の様子をタブレットに入力されており、利用者の様子がわかりやすくなっている。毎月、モニタリング・評価を行い、現況に即したプランを作成している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録、申し送りをもとにケア会議にて会議方針を立てている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 体調、体力、趣向など個々に合わせた対応ができるよう工夫している | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在は出来ていない | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月二回訪問診療、訪問歯科 週一回訪問看護など受け結果の報告をする | 月2回の訪問診療、週1回の訪看で利用者の体調管理に努めている。往診・訪看記録はケアマネが記録している。変化があったり、処方薬が変更になった場合は、管理者が家族に報告し記録に残していることが確認された。緊急時の対応マニュアルが整備されているので、訪看への連絡等、手順がわかりやすい。訪問歯科は希望者のみ受診としている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週一回の訪問と24時間の電話対応を活用し相談報告をする | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院可能なかかりつけ医の為平時より報告相談をこまめに行い急変時に備えている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | かかりつけ医、訪看とも状況を共有しご家族様との話し合いを行い支援できるようにする | 契約時に重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し、同意書を取り交わしている。重篤前に医師から家族に説明がある。過去に看取りの経験はあるが、今後、希望があれば、かかりつけ医・訪看・家族・利用者・事業所関係者と話し合い、方針を共有してチームで取り組んでいきたいとのこと。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | コロナ対応をふまえて救命講習が再開され次第参加予定 対応マニュアルを掲示している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練、消防計画、備蓄品の確保、持ち出し用ファイルを準備している 消防、業者による定期調査 | 消防署指導・自主訓練を実施し、昼夜を問わず、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身につけている。緊急時の持ち出し用品(利用者基本情報・サマリー・処方薬・意思確認書)や非常食など、備蓄品の整備を行った。利根川が近いが、水害時は動かないほうが良いと指示を受けている。 | 自然災害がいつ起きるかわからない状況下であるので、風水害マニュアルを作成し、全職員で共有することを期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員の言葉かけにもよく注意し周りの方への気遣いもたいせつにする | 利用者が不安にならないよう、ケア提供時や声掛けに関しては細心の注意を払っている。利用者の話に耳を傾け、受け入れることにより、利用者との関係も良好である。情報開示に向けた同意書を取り交わし個人情報保護に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 聞き取りよりも何気ない時の様子や言葉を見逃さないようにしてつかみとり支援へつなげる | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調や気分をよく観察し声掛けし支援する | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 常に明るい気持ちが保てるよう声掛け支援している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備を手伝っていただく事はしていないがテーブルを拭いていただく、食事の時間が近いことをアピールするなど楽しみに集まっていた | 旬のものを含む食材が注文配達され、各ユニットの担当者がメニューを決めている。利用者はテーブル拭きを手伝う。外食は自粛しているが、月1回の行事としてお弁当を購入したり、お好み焼きを作るなど、食の楽しみとしてイベント食に重点を置いている。医師の指示によりカロリー等の制限にも配慮されている。職員は見守り・声掛けで利用者の食欲や嚥下に注意をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 医師の指示も入れ量バランスを工夫し食事中も常に見守り声掛けする | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時食後の四回口腔ケア 訪問歯科のケア、指示への対応 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定期的に誘導し習慣になるよう支援している | パターン・チェック表・表情・様子から声掛け誘導を行い、失敗の回数を減らす努力をしており、改善した利用者がいる。水分・運動・繊維質食事・乳製品等から便秘解消に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 十分な水分摂取、運動などを促している 服薬による排便は強すぎないようにコントロールしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週に二回は入浴できるようスケジュールをたてている。シャワー浴の方には同時に足浴を行い満足感を増やす | 基本的には週2回の入浴支援で曜日も決められているが、強要せず、臨機応変に対応している。シャワー浴の利用者には足浴も実施し、芯から温まる配慮をしている。昔の風習を大切にし、季節のしょうぶ湯・ゆず湯を提供している。順番にこだわる利用者もいる。着替えの準備は利用者に聞きながら、職員が揃えている。皮膚感染予防対策は実施している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中不活発にならないよう声掛けレクへの参加を促すなどし昼夜のメリハリをつけるよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 準備時のチェック、服用介助時など常に職員間で話題にし確認し合っている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 体操などいろいろなパターンを用意しレク、散歩の他、洗濯物を畳んだりテレビパズル新聞などを楽しませている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在では施設の周りの散歩、庭での外気浴に限られている | コロナ禍であり、感染予防対策として外出は控えている。施設周辺の散策や庭の外気浴で五感の刺激を受けている。取手の花火大会は家族・近隣住民と玄関前で見る事ができるが、昨年も今年も中止となった。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在では行っていない | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠くに住むご家族様から手紙が来るとすぐに返事を書いて送っている リモートでの通話や電話 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロア内の飾りを毎月変えご利用者様にも参加していただく | 毎月、季節に合わせた飾りつけを行い、見当識への配慮がある。生活動線を安全に保つ為、不必要な物を置かないようにしている。トイレ・お風呂場の表示はわかりやすい。利用者が、自ら歯磨きが出来るよう、洗面所に個々のかごを用意し準備している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お話の合う方、気の合う方との組み合わせを基本にし独立する方のないように工夫している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 事故のないよう注意したうえお好みで持ち込んで良い事を伝えている ご家族様の写真やはがきなどを飾る | 居室入り口には名前を掲示し、混乱防止に努めている。藤のチェスト・衣装ケース・ドレッサー・テレビ・イス・テーブル等を安全面と動線に配慮し設置している。家族の写真・100歳のお祝い似顔絵・手紙・塗り絵・以前に作成した木目込み人形・愛読書・ぬいぐるみ・俳句等が飾られ、心和む居室となっている。週の予定をホワイトボードに記入し、利用者が自身の予定を把握できるようにしている。掃除は職員が行い、モップかけは利用者をお願いするときもある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者様の今週の予定を書き入れている | | |

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム福祉の里

目標達成計画

作成年月日 : 2021年8月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---------------------|-----------------------------|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 災害対策 風水害マニュアルの作成 | 水害以外の自然災害を想定したマニュアルの作成及び見直し | 職員ミーティングを行った上でマニュアル作成をし、風水害にも対応できる、備蓄を活用した防災訓練を行い、マニュアルの見直しをする | 3ヶ月 |
| 2 | | 子供110番の看板の設置 | 常に職員がいることで地域の方々の安心につなげたい | 運営推進会議が再開でき次第地域の方々と話し合う | 3ヶ月 |
| 3 | | 感染症対策委員会の設置 | 施設単位でなく系列施設全体で取り組みたい | 機会を見て代表者会議などで提案する | 3ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。